ヤノネカイガラムシ寄生蜂の寄生状況

1986～1987年に、中国より導入、愛媛県内に放飼されたヤノネカイガラムシの2種寄生蜂（写真）がその後全域に定着した。しかし、現在一部地域ではヤノネカイガラムシの多発が問題となっており、その要因の一つにこれら導入天敵の寄生状況の影響が考えられため調査を行った。

ヤノネキイロコバチ

ヤノネツヤコバチ

寄生蜂脱出孔

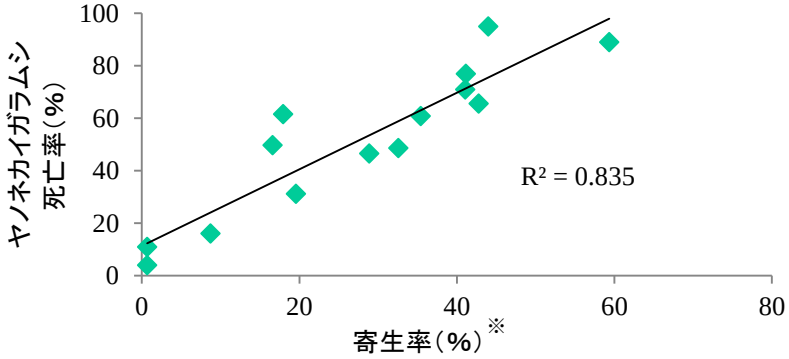

図　ヤノカイガラムシ越冬時死亡率と2種寄生蜂の寄生率の関係

※：ヤノネキイロコバチ・ヤノネツヤコバチの合計寄生率

越冬時の天敵寄生率とヤノネカイガラムシ死亡率には正の相関がみられ、寄生蜂による密度抑制効果は高かった。

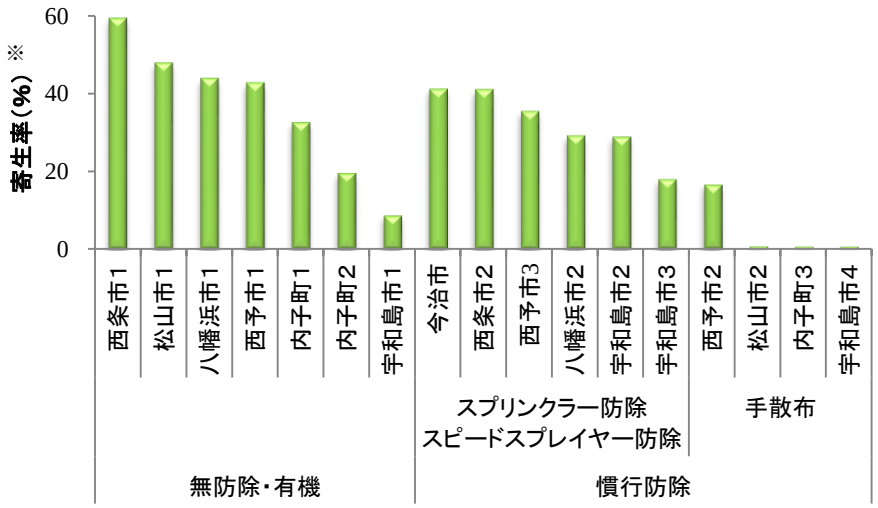

図　県下カンキツ園での防除方法等の違いと寄生蜂の寄生率

2013年1～3月調査

※：ヤノネキイロコバチ・ヤノネツヤコバチの合計寄生率

ヤノネキイロコバチとヤノネツヤコバチともに17園調査中15園で確認され、多くの地点に分布していた。２種寄生蜂の寄生率が、無防除・有機栽培園では高く、手散布による慣行防除園では寄生率が低かった。

２種の導入寄生蜂は、現在でも県下に広く分布しているものの、手散布で慣行防除を実施している園では寄生蜂が活動しづらい状況にあり、寄生蜂による密度抑制効果は得られにくいと考えられた。